

【 臨床研究に関する情報の公開 】

脳卒中で当院を受診された患者さまの試料・情報を用いた医学系研究に対するご協力のお願ひについて

項 目	内 容
1. 研究課題名	急性期脳卒中患者に対しての高頻度リハビリテーション介入が機能的予後に及ぼす影響
2. 研究の対象者	2014年1月から2019年12月の間に、脳卒中(テント上病変および保存治療例)と診断され当院へ入院となり、急性期リハビリテーションを受けられた方
3. 研究期間	2022年5月9日 ～ 2022年10月16日
4. 研究実施体制と研究責任者	研究実施箇所：関西電力病院 リハビリテーション部 研究責任技師：リハビリテーション部技師 高田祐輔 共同研究機関：なし 資料・情報提供機関：なし
5. 本研究の意義・目的	急性期脳卒中患者様に対するリハビリテーションは、廃用症候群を予防しADL向上を図るため、できるだけ発症後早期から積極的に実施することが推奨されています。しかし、早期に実施されるリハビリテーションの時間、頻度、開始時期に関しては、報告内容が幅広く、一定の見解が得られていません。一方、過去の研究では、急性期からの高頻度リハビリテーション介入は、機能的予後の改善に寄与する可能性が報告されています。そこで、本研究の目的は、当院にて急性期脳卒中リハビリテーションを受けられた方において、高頻度リハビリテーション介入による機能的予後への影響を調査することです。
6. 研究の方法	本研究は後方視的研究です。カルテより身体機能評価などの情報を収集します。個人の特定が可能な情報は解析に用いません。特に患者様に新たにご負担頂くことはありません。
7. 研究に用いる試料・情報の種類	診断名、併存症、年齢、性別、筋力、NIHSS、FAC、ABMS II、リハビリテーション介入時間および頻度、端座位獲得までの日数、在院日数、転帰先、合併症、mRS、病型、病巣部位、病巣側、tPAの有無、BI
8. 試料・情報の保管方法と廃棄方法	患者様の診療情報・データ等は、解析する前にID・氏名・生年月日等の個人情報を削り、代わりに新しく符号をつけ、個人が特定できないようにした上で、当院のパスワードロックをかけたパソコンで厳重に保管します。 データ廃棄の際は複数名で完全にデータを消去したことを確認します。
9. 個人情報の保護について	この研究に関わって収集される試料や情報・データ等は外部に漏えいすることのないように、慎重に取り扱います。研究結果は個人が特定できない形式で学会や医学雑誌に公表される予定です。研究にご自身の臨床データや試料を提供したくない場合は、問い合わせ窓口へお申し出下さい。お申し出いただいても、診療等に不利益が生じることはありません。
10. 情報管理責任者	関西電力病院 リハビリテーション部技師 高田祐輔
11. 問い合わせ・苦情等の窓口	〒553-0003 大阪市福島区福島2丁目1番7号 関西電力病院 リハビリテーション部 高田祐輔 電話：06-6458-5821 (代表)